

## 参加されたEBACの先生の声

医療法人慶生会 ひぐち歯科クリニック 樋口均也先生

2012年9月14日から16日まで、モンゴルで開催されるアジア予防歯科学会で発表する機会を得ました。マレーシアに引き続き今回も5名のスタッフが同行し、医院旅行を兼ねました。

14日の昼下がりにウランバートル中心部の学会会場に到着しました。会場は「政府庁舎」というところでビルの正面に奈良の大仏ほどの大きさのジンギスカン像が鎮座していました。ウランバートルのランドマークであるスフバートル広場に面したビルです。どの敷地の入り口や建物の入り口でも大統領警備隊風の軍人が出入りする人をチェックしている光景が目に入ります。

本当にこのようなところで学会が開かれているのだろうかと言いつつ敷地に入っていくと、学会のネームプレートをぶら下げた学会参加者を見かけたのでほっとしました。ところがここに一つの障壁が待っていました。名前が名前だけにこのビルは警戒厳重で、パスポートチェックと手荷物のエックス線検査を受けなければなりません。私達一行はホテルにパスポートを預けてきたため入れてもらえず、取りに帰るはめになりました。

ビルの中には国会議事堂や大統領の執務室などがあるようで、至る所に軍人が立って見張っていました。到着したのがちょうどランチタイムだったので、軍人に誘導されて食堂に移動し、モンゴル料理のバイキングにありつけました。

午後のシンポジウムでは、中国、マレーシア、日本、タイから出席した教授達が口腔衛生の普及活動や災害時の対応などについて発表されました。会場は演劇や歌が上演されそうな絢爛豪華な部屋で、いかにも国賓をもてなすのに使われていそうな雰囲気でした。

学会2日目はポスター発表日です。本日の学会会場のウランバートルホテルに入り、ポスター掲示の段取りを整え、ポスター会場と口演会場を往来しました。前回マレーシアの大会長であったラシュマン教授がシンポジウムに登場し、アジア予防歯

科学会が提唱する虫歯予防法について口演されました。その中で、フッ素配合の歯磨き粉で歯を磨いた後は次の3通りのいずれかを行うべきであると解説されました。一つ目は歯磨き粉を口の中に残したままにし、口をすすがないことです。二つ目は歯磨き中に溢れ出た唾液をコップに溜めておき、歯磨き後にその液で口をすすぐことです。三つ目はフッ素配合のマウスリンスで口をすすぐことでした。

ポスター会場ではアジア各国からの参加者の発表が行われました。今回の学会にはカザフスタンやウズベキスタン、ロシア連邦内のブリヤード共和国など旧共産圏の国が幾つも初参加していました。ポスターの中で1番印象に残ったのは虚血性心疾患に関するものでした。狭心症や心筋梗塞といった虚血性心疾患を有する患者は健康成人と比較して明らかに歯周病が進行しているという結果でした。肉や乳製品の摂取量や喫煙に関しては両者の間に違いは認められませんでした。この発表から次のように推測することができます。虚血性心疾患を患った後で、再発を予防するために気を付けるべきことは、食生活やたばこよりもお口の健康だということです。

予定終了時刻の午後5時に無事にポスター発表を終えてポスターを回収し、学会が用意したバスに乗り込みました。皆で町の郊外のモンゴリアホテルに移動し、ここで「カルチャーナイト」と銘打った晩餐会が開かれました。このホテルは客室の多くがゲルという遊牧民のテントになっているリゾートホテルです。中央の寺院風の建物の前をステージとして、モンゴル伝統舞踊や民踊、ホーミーなどが出し物として披露されました。演じたのはモンゴル唯一の歯学部教授や学生達でした。この学会はモンゴル国立健康科学大学歯学部を挙げて開催されたようです。

騎馬行進や花火、ミスモンゴルの出演もあり、モンゴル文化を堪能することができました。韓国からは80名の参加者があり、西暦1000年頃にモンゴル王室から韓国王室に嫁いだ王姫の故事に因んだ古典劇も演じられました。

ウランバートルは北海道より北に位置し、標高も1300mと高いため夜はかなり冷え込みます。宴が進み、参加者が寒さでこごえ始めた頃に、焚き火が始まりました。火の周りに集って暖まりながら、皆で歌って踊り、モンゴルの夜は更けていきました。

**医院名：医療法人慶生会 ひぐち歯科クリニック**

住所：大阪府茨木市双葉町2-27 茨木シティライフビル4F

TEL：072-657-1782

医院紹介：ひぐち歯科には口臭やドライマウス、舌痛症、味覚異常、顎関節症、口腔粘膜疾患、歯科心身症、口腔顔面痛、歯科金属、アレルギーなど多種多様な症状を持つ患者様が来院されています。かなり遠方からの患者様も多く、近畿一円に留まらず北陸、東海、中・四国地方、中には関東からも、まさに人生をかけて来院されています。そのため、個々の症状や部位を専門的に詳しく診査、検査、診断、治療することはもちろん、患者様を全人的に捉えて診療に当たっています。